

平成 26 年 3 月 5 日

## 福島大学 災害心理研究所を新設

【名称】プロジェクト研究所『災害心理研究所』

【設置期間】平成 26 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

【研究組織】

所長：

福島大学共生システム理工学類 教授 筒井雄二（実験心理学）

プロジェクト研究員：

福島大学人間発達文化学類 教授 内山登紀夫（児童精神医学）

福島大学人間発達文化学類 准教授 高谷理恵子（発達心理学）

福島大学人間発達文化学類 准教授 富永美佐子（青年心理学）

福島大学共生システム理工学類 准教授 高原 円（精神生理学）

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 特任准教授 本多 環

（教育カウンセラ-）

プロジェクト客員研究員

名古屋大学教育学研究科 教授 氏家達夫（発達心理学）

国立病院機構福島病院 病院長 氏家二郎（小児科医）

京都大学名誉教授、(財)国際高等研究所フェロー 木下富雄（社会心理学）

NPO 法人シャローム 吉野裕之

プロジェクト研究補助員

福島大学 共生システム理工学類 臨時職員 横山京子

【研究テーマ】

放射線被ばくに対する不安や恐怖が人々の心理的健康と子どもたちの発達に及ぼす影響のメカニズムの解明と心理学的対処方略の開発

【経緯】

福島大学 子どもの心のストレスアセスメントチームは東日本大震災の直後から福島県で生活している親子の心理的健康問題について調べてきた。去年 6 月と 7 月には、福島で生活している子どもと彼らの保護者の不安やストレスが震災直後に比べて低下する傾向があるが、他県と比べて著しく高い状態が続いていること（2013 年 6 月）、新たな問題として震災後に生まれた子どもたちにも原発事故に由来するストレス反応が現れていること（2013 年 7 月）を発表

した。

地震や津波など自然災害と心理的問題との関係、あるいは自然災害時の心のケアについてはこれまで非常によく研究されてきた。それに対して原子力災害がどのような心理的問題を引き起こすのか、子どもたちの心理的発達にどんな影響を及ぼすのかについては、科学的にはまったく解明されていない。チェルノブイリ原発事故から28年が経過するウクライナでは、今でも心理的問題をかかえた被災者が非常に多く、原発事故が引き起こす諸問題の中でもっとも解決に時間がかかる問題が放射能汚染に由来する心理的問題だとの指摘もある。「健康被害が現れるのではないか」「子どもがガンになるのではないか」という不安や恐怖に慢性的に曝されることが、福島で生活する人々にどのような影響を与えるのかについて明らかにしていく必要がある。

### 【目的】

このような状況から福島で起こっている原発事故に由来する心理的被害を解析し、子どもたちの発達に及ぼす影響を予測すると同時に、その影響を食い止める対処法を開発する必要があると判断するに至った。そこで、福島大学 子どもの心のストレスアセスメントチームを母体とし、発達心理、社会心理、臨床心理、実験心理、精神医学、小児医学など様々な専門家の協力を得ながら、学際的にこの問題の解決に取り組むための研究体制を福島大学に整えることをめざし研究所を設立する。

当研究所が推進するプロジェクトの主な目的は、放射線による健康被害への不安が親や子どもの心理的健康や子どもの発達に深刻でネガティブな影響を及ぼすメカニズムやその影響を弱めたり影響を受けにくくするメカニズムを解明し、そのメカニズムに基づいた放射線被ばくの不安の影響を最小化する方法を開発・実用化することにある。具体的には、親のストレスと親行動の関係性を解明し、親のストレスと親行動が乳幼児にストレスを生み出す仕組みと、逆に乳幼児のストレスや発達の問題が親のストレスや親行動に影響する仕組みを解明する、親や教師・学校、仲間、TV やネットからの情報と小学生のストレスとの関係を解明する、～ の研究成果に基づいて福島の親子を対象とした支援プログラムの開発・実用化を行う。

研究の成果は、今、福島が直面している問題の解決に役立つと同時に、将来、世界のどこかで同じような問題が起こった場合の対処にも役立つだろうと期待している。

(お問い合わせ先)

福島大学 共生システム理工学類  
筒井雄二

電話：024-548-8163

メール：tsutsui@sss.fukushima-u.ac.jp